東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009年1月23日

悔悟

親愛なるムスリムの皆様。崇高なるアッラーは、善と悪について私たちに知識を与えられ、善を命じ悪を禁じられました。私たちに選択の自由も与えられました。そして、私たちが行った事に対して責任を持っていることを教えられました。善は報償で、悪は罰によって応じられることも明らかにされました。また、罪を犯したしもべに対し、悔悟とお許しの可能性も与えられました。悔悟は、しもべが犯した罪を悔やみ、二度と行わないことを崇高なるアッラーに誓い、アッラーから許しを乞うことです。

許しを乞うという願いは、しもべが過ちを犯したことによって良心に痛みを感じることからおこります。罪は、アッラーのご満悦としもべの間の障壁です。この障壁を取り除くことは、人の行う悔悟によるものとなります。預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）は、人が罪を犯すことと悔悟することについて、次のようにおっしゃられました。「人は皆、罪を犯しうる。罪を犯す者たちのうち、最も価値のあるのは、悔悟する者である。」

親愛なるムスリムの皆様。悔悟は、全ての信者に命じられ、また推奨されたものです。なぜならしもべは、アッラーがしもべに義務とされたことを、どれほど努力したとしても、守りきれず、過ちを犯してしまうからです。崇高なるアッラーは、「あなたがた信者よ、皆一緒に悔悟してアッラーに返れ。必ずあなたがたは成功するであろう。」と仰せられておられるのです。預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）もまた、しもべの悔悟をアッラーが喜ばれることに関し、次のようにおっしゃられました。「しもべの悔悟によるアッラーのお喜びは、　あなたがたがひとけのない砂漠でらくだを見失い、そしてそれを見つけた時の喜びにも勝るものだ。」

信者の皆様。悔悟がアッラーによって承認されるためには、心からの、完全なイフラースによって行なわれる必要があります。心から悔やみ、それを持続させ、言葉によって許しを乞い、動作によっても罪から遠ざかることによって、それは可能になります。また、しもべや人々の権利に関わる件において悔悟する場合は、まず彼らの権利をただし、許されることが必要です。禁止章第８節において「あなたがた信仰する者よ、謙虚に悔悟してアッラーに帰れ。」とされているのです。

親愛なるムスリムの皆様。人々を生に結びつける要素の最たるものが、信仰と、それを源とする希望です。悔悟と、それに伴う許されるという思いは、罪に陥り希望を失った人たちを、再び生へと結びつけるものです。だから、アッラーを信じる人は、知りつつ、もしくは知らずに罪を犯した時、すぐにアッラーに向かい、悔悟しなければならないのです。なぜなら、崇高なるアッラーは、誠実な、そして条件にあった形で行なわれる悔悟を認められ、罪を放棄しご自身に向き直る人々を喜ばれることを、はっきりと私たちに示されておられるからです。罪を犯した人々にとって、アッラーの慈悲、お許し、恵みの他には、避難するところは存在しないのです。

本日のホトバを、相談章第２５節の訳で締めくくりたいと思います。「かれこそは、しもべたちの悔悟を受け入れ、様々な罪を許し、あなたがたの行うことを知っておられる。」